

## 手袋

一人の老人が、子犬を後ろにつれて森の中を歩いていました。老人が歩いていると、彼の手袋（ふたまた手袋）の一つを落としてしまい、気づかないで歩いていました。

ねずみがすばやく走ってきて、手袋の中にもぐりこんで、言いました。「これを僕の家に行きましょう」

狐がやってきました。「この手袋に誰が住んでいるの？」 「僕だよ。欲深いねずみだよ。君はだれ？」 おしゃれな狐が「中に入れて」「いいよ。中に入って」それで今では、二匹になりました。

それから、狼がやってきました。「この手袋に誰が入っているの？」 「僕たちだよ、欲深いねずみとおしゃれな狐だよ。君は誰？」 「僕は灰色の狼だよ」「僕も入れて」「ええ、いいよ」今では三匹になりました。

おや、野生のイノシシがやってきました。「ふん、ふん！この手袋に誰が住んでいるの？」 「僕たちだよ、欲深いねずみ、おしゃれな狐と灰色の狼だよ。君は誰？」 「僕は牙のある野生のイノシシだよ。僕も入れて！」 「え、絶対に入れないよ」「入れるよ、入るよ」「ええ、じゃあ、いいよ」

これで四匹になりました。ちょうどそのとき、誰かの足元で、枝がばちばちと音を立てて、折れる音がしてきました。熊だった。「この手袋に誰が住んでいるの？」 「僕たちだよ。欲深いねずみ、おしゃれな狐、灰色の狼と牙をむいたイノシシだよ。君はだれ？」 「うー、うー、足を踏み鳴らしている熊だよ。僕も入れて」「絶対にだめ！家はいっぱい！」「何と言っても、入るよ」「ああ、君をとめられないけど、部屋の隅にいて！」

それで、手袋はその網目が破裂しそうになりました。

さて、その老人は失くした手袋を探していました。前のほうを走っていた彼の子犬が手袋の方へやってきました。手袋はもぞもぞ、ごそごそ動いていました。「わんわん！」と子犬が吠えました。

びっくりした動物はみんな、手袋から這い出て、あわてて森の中に走っていきました。それから老人がやってきて、失くした手袋を拾い上げました。

